

授業の幅が広がる「白プリ」活用術

学校専用に販売されているプリント教材、通称「白プリ」。

年間12枚〜20枚程度で、教科書の単元ごとに、基本問題から発展問題までを1枚のシートに収めたプリント教材です。

各学校へは、1年間分の問題用プリントと解説・解答のプリントを1冊に綴じた見本が届けられています。

もともとは単元ごとの学習状況の評価のための教材で、今でも評価テストとして使われるケースも多いのですが、「1単元1枚。その都度配布できる。」という扱いやすい形態のため、単元終了時の確認や、定期テスト前の復習として、さらには急な自習時間用の教材としてなど、さまざまな用途で活用されています。

近年、学習内容が増加し、授業で様々な活動を行うようになっている中で「使う時間がとれない。使う場面がわからない。」という先生方の声が増えてきました。

いっぽうで、この「白プリ」を年間の指導の中にもく組み込み、実験・観察などの様々な活動の時間を確保しつつ、生徒の学力を伸ばしている先生方も大勢いらっしゃいます。

指導計画作成時のご参考に、この「白プリ」(以下「単元プリント」と称します)をどのように活用されているか、全国の先生方が実際に使用されている事例をご紹介します。

単元プリントをよく活用している都道府県(採用率)

都道府県	国語	社会	数学	理科	英語	合計
福井	100.0%	96.9%	94.4%	96.4%	100.0%	97.5%
長野	85.5%	74.2%	85.7%	98.3%	96.3%	87.8%
石川	79.4%	84.2%	82.4%	97.2%	86.5%	86.0%
鳥取	88.9%	52.0%	100.0%	95.8%	73.1%	82.2%
徳島	94.7%	60.0%	65.6%	90.3%	80.6%	78.2%
栃木	75.0%	48.6%	69.7%	90.0%	100.0%	76.8%
富山	73.7%	66.7%	66.7%	90.9%	75.0%	74.7%
新潟	89.7%	50.9%	66.1%	93.2%	74.5%	74.7%
群馬	55.2%	75.7%	61.8%	69.0%	85.7%	70.0%
青森	73.1%	69.4%	59.4%	70.3%	73.1%	68.3%

(2012年 一般社団法人全国図書教材協議会の調査による)

主な使用場面(教科別)

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
単元ごとに授業で使用する	42.4%	40.3%	51.6%	49.7%	54.3%	48.0%
単元ごとに宿題で使用する	25.3%	23.2%	19.8%	21.8%	20.9%	22.3%
テスト前に授業で使用する	17.4%	16.6%	15.9%	14.7%	13.3%	15.4%
テスト前に宿題で使用する	12.3%	16.1%	8.7%	10.8%	8.4%	11.1%
その他(自習など)	2.4%	3.7%	3.8%	2.9%	3.1%	3.1%

(2012年 一般社団法人全国図書教材協議会の調査による)



単元プリントとは

単元プリントは、教科書を参考にして(進度、内容等を教科書にあわせて)編集したものが主流です。通常、A4判・縦型(国語は横型)で、両面に問題が入っています。

おもて面が基本問題、うら面が発展問題となっています。



出題内容

基本問題、発展問題の内容は、発行している会社にもよりますが、概ね次のようになっています。

国語 年間12回〜18回

おもて面 教科書の文章の一部を使った読解問題、漢字など

うら面 教科書の文章の一部や、教科書の文章と関連したほかの文章を使った読解問題。記述式の問題は、主にうら面で出題される。

社会 (分野別販売) 年間20枚程度

おもて面 教科書の太字の用語を中心とした、基礎的・基本的な知識事項の問題

うら面 資料読み取り、記述式問題など、その単元の総合問題

数学 年間12回〜16回

おもて面 計算問題等、「技能」の観点を中心とした基本問題

うら面 文章問題、総合問題、「数学的な見方や考え方」の観点の問題など

理科 年間20回前後

おもて面 教科書の太字の用語を中心とした、基礎的・基本的な知識事項の問題

うら面 実験・観察をテーマにした総合問題、記述式問題など

解説・解答

解説・解答は、問題と同じ紙面に答えや解説が入った「縮刷解答」や「本誌同寸解答」となっています。



英語 年間12回〜16回

おもて面 単語・連語、基本文を確認する「知識・解」の観点の問題

うら面 長文・対話文を読んで答える問題、英作文問題など

単元プリント選定時に重視するポイント(複数回答)

	国語	社会	数学	理科	英語
新学習指導要領にあっている	11.5%	22.8%	12%	17.3%	10.6%
難易度を重視	19.3%	14.8%	19.9%	18.2%	18.9%
回数を重視	8.9%	8.9%	16.8%	10.5%	10.3%
価格を重視	10.8%	11.3%	8.9%	11%	11.5%
観点別評価ができる	8.3%	9.6%	12%	8.9%	12.6%
問題の内容・構成がよかった	34.1%	27.8%	22.9%	27.2%	28.3%
付属品が充実している	3.8%	1.8%	0.7%	2.3%	4.7%
その他	3.4%	3.1%	6.9%	4.4%	3.2%

重視するポイントとして挙げた先生の割合が最多
 重視するポイントとして挙げた先生の割合が第2位
 (2012年 一般社団法人全国図書教材協議会の調査による)

評価の「観点」

また、「観点別学習状況の評価」の参考になるよう、問題には評価の「観点」が付されています。



ワークブックとの違い

ワークブックは、単元の中をさらに細かく区切って、作業的な問題も多くなっています。これに対して単元プリントは、1単元の内容を1枚のテスト形式に凝縮しています。問題文も解答様式も、実際のテストにより近くなっています。



単元プリント活用術〔単元終了時〕

単元プリントはその名の通り、「教科書の1単元に
合わせて1枚」となっていますので、単元が終了した
ときに使用することができます。

単元ごとの使用方法

教科書の単元	単元プリントの出題内容	活用例
Warm-up	1 Warm-up	Unit 5 1 時間目 2 時間目 3 時間目 4 時間目
Unit 1	2 Unit 1	
Unit 2 まとめと練習 学び方コーナー	3 Unit 2～学び方コーナー	
Unit 3 まとめと練習 Listening Plus 1	4 Unit 3～Listening Plus 1	
Unit 4 Multi Plus 1	6 Unit 4～Multi Plus 1	5 be動詞と一般動詞
Unit 5	7 Unit 5	Unit 6 1 時間目 2 時間目 3 時間目 4 時間目 まとめと練習 Listening Plus 2 Speaking Plus 1
Unit 6 まとめと練習 Listening Plus 2 Speaking Plus 1	8 Unit 6～Speaking Plus 1	
Unit 7 Writing Plus 1 Listening Plus 3 英語の歌	10 Unit 7～英語の歌	9 三人称単数現在形、複数形
Unit 8 まとめと練習 学び方コーナー Writing Plus 2	11 Unit 8～Writing Plus 2	Unit 6 1 時間目 2 時間目 3 時間目 4 時間目 まとめと練習 Listening Plus 2 Speaking Plus 1
Unit 9 Listening Plus 4 Speaking Plus 2 Multi Plus 2	12 Unit 9～Multi Plus 2	
Unit 10 まとめと練習 学び方コーナー Speaking Plus 3	14 Unit 10～Speaking Plus 3	
Unit 11 Listening Plus 5 Speaking Plus 4 Writing Plus 3 Let's Read	15 Unit 11～Let's Read	13 現在形と進行形、疑問詞
	16 現在形と過去形	

実際の使用例

単元が終わるたびに1枚ずつ配布。授業中
2分でおもて・うらまで取り組ませ、残った
ら宿題にする。
問題に取り組んでいるときに、注意を喚起
しておきたい問題や応用問題の解説を口頭で
行う。解説・解答は次の授業時に配布。
定期テストに出題している。どのような問
題を出題するかは決めていない。1回のテス
ト中、自作の問題が80点分、ワークとプリン
トで20点分。

(富山県 英語・M先生)

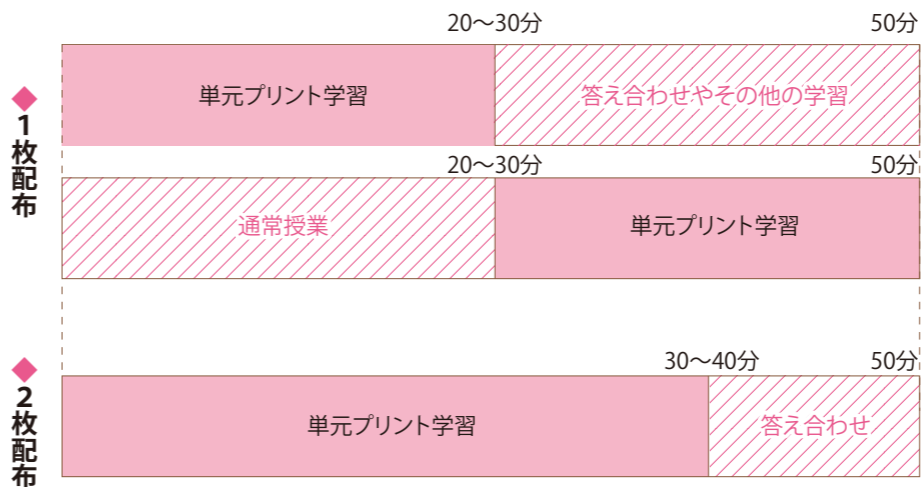
単元が終わるたびに1枚配布。半分は授業
中に使う。実施時間は15分。解けなかった問題
は宿題にする。大体うらまでは残ってしまう。
答え合わせは解説・解答を配って自己採
点。授業中に全体で解説する場合もある。宿
題にする場合は、次の授業で解説・解答を
配って答え合わせする。問題をピックアップ
して補足説明をする。
単元プリント、ワーク、自作プリントの問
題を定期テストにも出題する。問題形式を変
えたり、ヒントの語句を取るなどして、難易
度を上げて出題する。定期テストは2回目な
ので、少し難しくしたい。回収・点検はする
が、提出物の評価としてのみ活用する。

(福井県 社会・H先生)

使用時間

1枚(1回)の実施時間は20分～30分程度です。1
単位時間の授業で、問題をさせるだけなら2枚、答
え合わせをして、間違えやすい問題を解説するなど
したら1枚配布して学習させるケースが多いよう
です。1枚だけ使う場合は、前後に別の学習をさせるこ
とができます。

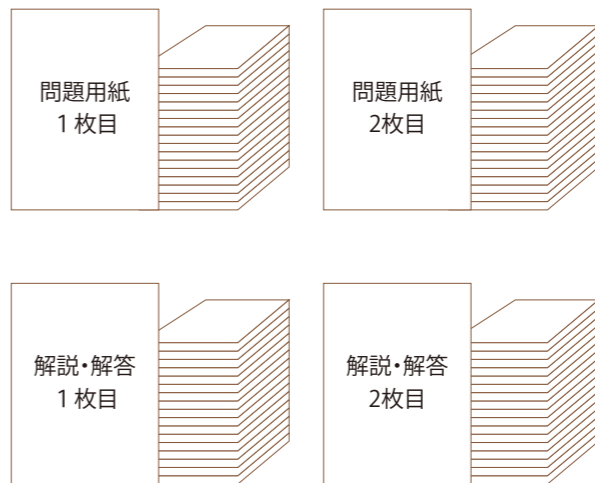
使用時間の例



単元プリントの活用場面

単元プリントは、「1クラス1回分」というま
りて納品されますので、さまざまな使い方に
対応できます。学校で保管していたく教材
です。ワークブックなど自宅保管の教材と
違い、必ず全員で同じ学習をすることが
できます。

納品形態



どのようなときに使用されているか

- 1 単元終了時に
- 2 定期テスト前の復習時間に
- 3 急な自習時間に
- 4 パフォーマンステストや面談などの際、自分の順番を待っている間の学習材料に

1回ごとに配布できる教材です
ので、上記のような使い方を
混ぜて使用されるケースが
多くなっています。

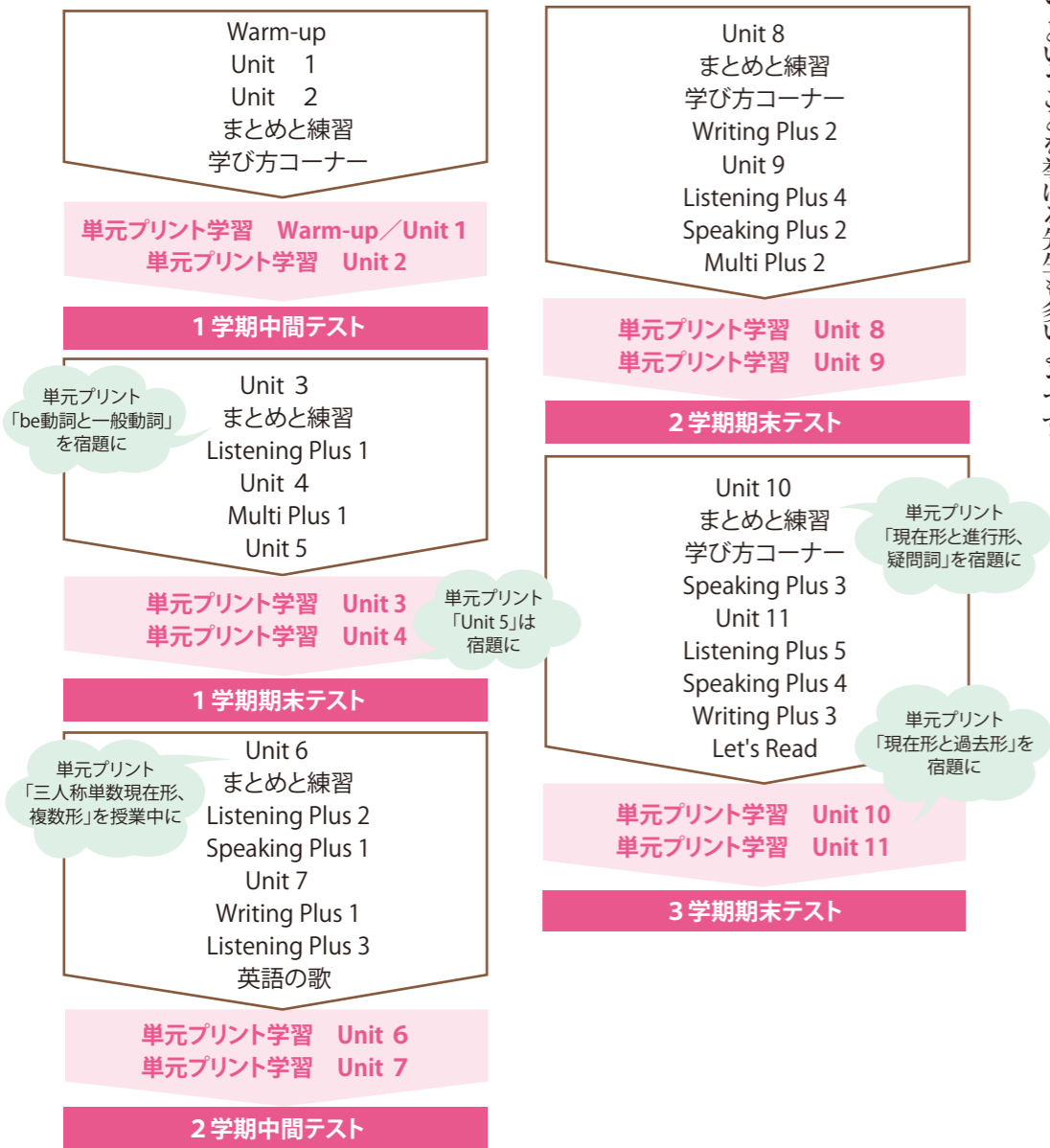
単元プリントの主な使用場面

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
単元ごとに授業で使用する	42.4%	40.3%	51.6%	49.7%	54.3%	48.0%
テスト前に授業で使用する	25.3%	23.2%	19.8%	21.8%	20.9%	22.3%
単元ごとに宿題で使用する	17.4%	16.6%	15.9%	14.7%	13.3%	15.4%
テスト前に宿題で使用する	12.3%	16.1%	8.7%	10.8%	8.4%	11.1%
その他(自習など)	2.4%	3.7%	4.0%	3.0%	3.1%	3.2%
授業で使用	67.8%	63.5%	71.4%	71.5%	75.2%	70.3%
宿題で使用	29.8%	32.7%	24.6%	25.5%	21.7%	26.5%
その他	2.4%	3.7%	4.0%	3.0%	3.1%	3.2%
単元ごと	59.9%	57.0%	67.5%	64.5%	67.6%	63.5%
テスト前	37.7%	39.3%	28.5%	32.5%	29.3%	33.3%
その他	2.4%	3.7%	4.0%	3.0%	3.1%	3.2%

(2012年 一般社団法人全国図書教材協議会の調査による)

単元プリント活用術〔定期テスト前〕

◆授業の流れの例



定期テスト前に復習の時間を2〜3時間とり、その中で取り組ませるケースもあります。単元プリントを使う理由の一つに、テスト形式の問題に慣れさせたい、ということも挙げられる先生も多いようです。

単元の学習が終わったあと、最後の授業で使用。授業以外ではほとんど使わない。授業中に解説まで行う。おもて・うら通して30分でさせる。その間、机間指導を確認する。その後、解説・解答を配布して自己採点。記述問題も自分で採点させる。生徒の質問には答える形にする。

単元プリントは定期テストの範囲として提示する。ワークも同じ。類似問題も出題する。100点満点の素点のみ集計。観点別には評価していない。

(鹿児島県 国語・I先生)

単元が終わるたびに1枚配る。使用場面は授業中と家庭学習の半々。

授業で実施する場合は1問ずつ全員で順番にやっていく。1人ひとり解かせる場合と、グループで解かせる場合がある。おもて面はとばしてうら面だけを使う場合もある。おもて面は家庭学習で簡単にできるから。家庭学習で実施する場合は、次の授業で解説・解答を配って自己採点させる。

単元プリントやワークの問題を定期テストに出題することはある。全体の3割程度。テスト前にも、もう一度取り組ませる。回収・点検はするが、提出物の評価に入れるだけ。

(福井県 数学・I先生)

◆その他の単元終了時の使用例

- *単元が終わるたびに1枚ずつ配布。授業の余った10〜15分で使用。残った分は宿題に。
- *単元が終わった時に配布して、基本問題のみをさせる。わからないところは教科書を見て解かせる。
- *単元の学習が終わったあと、最後の授業で使用。単元プリントを使用する授業では、最初の15分でリスニングをさせる。あとの30分で解かせる。
- *単元の最後に、1時間で2枚させるようにしている。それだと丁度1時間で終わる。
- *単元終了後に小テストとして使用する。全回、同じ使い方。実施時間は15分〜20分。
- *単元の終わりに使用。1時間の授業のうち、半分授業をして、残り半分で問題を解く時間をとる。
- *単元が終わるたびに1枚使用する。テスト前に使うときもある。基本的に単元プリントは、授業との間を空けて、点検の目的で使う。(ワークは授業のすぐ後に使用)。
- *単元が終わるたびに1枚ずつ配布。全部で最低2回取り組ませている。1回目は、授業の余った10分程度で使用。残った分は宿題になる。

◆実際の使用例

定期テスト前のふり返りの時間に問題練習をさせるために使う。テスト範囲を単元プリント3〜4枚分に合わせる。ふり返りの時間の1時間に1枚配布する。プリント以外の学習もさせる。1回のテスト範囲で3枚から4枚3〜4時間はふり返りの時間を取る。答え合わせは、解説・解答を配布して自己採点。絶対におさえさせたいところや間違えやすいところを解説する。単元プリントから定期テストに出すのは基本問題が多い。たまにやりがいのある問題を出題することもある。回収・点検はできるだけだけする。提出しないんだめという意識づけをさせるため。

(青森県 理科・K先生)

定期テスト前に使用する。テスト前の週に1枚ずつになるように調整する。調整が間に合わなかったときは、週末の宿題にする。授業のほうの比率は多め。授業では週1枚ずつ、宿題としてはまとめてのときもある。定期テストの内容として、ワークと単元プリントの内容を少しずつ取り込み、勉強した子がある程度解けるように、また一度勉強したことが定着しているか確認する。全体の問題数の1〜2割程度。授業で使うときは答え合わせまで含めて50分。特に記述などは生徒に解答を黒板に書かせたりもする。

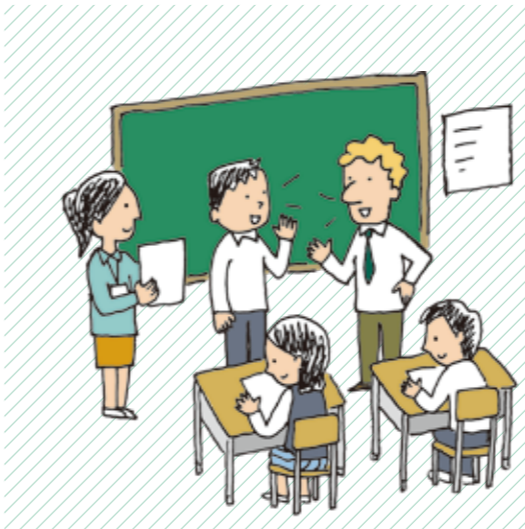
(石川県 社会・M先生)

先生の声

単元プリントはこんなときにも

◆授業中に speaking テストなどをして、生徒によってできるスピードが違うとき、空き時間ができるのでスポット的に使用。おもて面を授業で、うら面を宿題にすることが多い。おもて面も残った生徒は宿題。

◆1年間で使い切れないこともあり、残った次の学年の最初に取り組ませる。年度の最初は教科書に入らず、復習するのでちょうど良い。



◆単元終了ごとに使う。複数クラスが同じ授業進度になるように、調整として使用する。

単元プリント活用術〔指導の工夫〕

授業で使用するときはおもて面だけを生徒同士で相談しながら取り組ませ、交換して〇つけをさせる。中には考えずに聞いて書くだけの生徒もいるが、何も見ないよりはよい。とにかく取り組まることに意味があると思っさせている。定期テストには単元プリントから1問は出し、ワーク・授業でした問題などを合わせて5〜6割は類似問題を出す。

〇つけたものを、本誌と解説・解答をセットで回収し、記述問題などがどれくらい書けているか確認する。その後、返却してきつちりファイリングするよう指導し、再度提出させる。一見手間がかかるように思われるが、ここまで指導して回収すると、提出物チェックがすごく楽になるのでこうしている。

(富山県 国語・N先生)

定期テスト前にその範囲のものを2〜3枚まとめて使用。自己採点で、問題をピックアップして全体で解説をする。ほとんどの回を授業中に実施するが、宿題になってしまふ場合は、解説・解答もいっしょに配る。

テスト前の数日は単元プリント用の時間にして、それだけやらせる。解き終わった生徒から解説・解答を取りにこさせて、自己採点させる。単元プリントやワークの問題を定期テストに出題するときは、アレンジして類似問題とする。割合としては30点分ぐらい。それで平均点は60点ぐらい。回収・点検はしない。評価にも入れない。

(福井県 英語・S先生)

その他の定期テスト前の使用例

- * 定期テスト範囲前にもとめて、解説・解答も一緒に配布。2〜5枚。
- * 定期テスト範囲の発表時に2〜3枚まとめて配布する。家庭学習で取り組ませる。
- * テスト前の復習として、範囲のものを配る。2日ごとに1枚、1週間に2〜3枚。基本的には宿題だが、自習に使うこともある。
- * テスト前にもとめて使用。ただし、配り方は生徒に負担感を与えないよう1日1枚にしている。宿題として渡して、翌日に生徒が自己採点する。
- * 定期テスト前にその範囲のものをまとめて使用。テスト前の数日は単元プリント用の時間にして、1時間に1枚やらせる。
- * 単元プリントは、定期テスト前に、その範囲のものをまとめて使う。定期テスト前は教育相談等で自習が多くなるので、その時間に使う。



先生の声

単元プリントで勉強の仕方を指導

単元プリントの問題を定期テストに出題する。生徒のレベルによって、同一問題のときとそうでないときがある。

単元プリントの問題を定期テストに出題することは、1年生には勉強の仕方を教える意味もある。授業の後、きちんとプリントの問題をやることで定期テストでいい点がとれる、ということ。

1年生の最初は、定期テストの全問題をワークと単元プリントから出題している。定期テスト中にする単元プリントからの出題は、2年生では3割から4割。3年生では1割から2割ぐらい。



与えっぱなしではなかなか力がつきませんが、丁寧に指導をする時間もなかなか取れない、という事情もあります。単元プリントを活用されている先生方は、限られた時間の中でいろいろな工夫をされています。

実際の使用例

単元の学習終了後、少し間を置いて使う。生徒が忘れかけてきたところに、思い出させる意味で使うと効果的。授業1時間をまるまる使うことはない。時間のある限りさせて残りは宿題・休み時間など。全部解答を埋めるまでは受け取らない。白紙で提出させても全く意味がないと考えている。回収して集計。おもて面は、関心をはかるものとして考えている。うら面の「書く」観点の問題は重宝している。

(鹿児島県 国語・T先生)

定期テスト前に使用。基本的には1枚ずつ、授業中に30分ぐらいかけて使う。記述問題に慣れさせたい。答え合わせは問題を解いた残り時間で行う。記述だけは間違えても消させず、みんなで答え合わせする。記述でできなかった問題は再度宿題として提出させる。定期テストには単元プリントから2〜3割、ワークから5〜6割で、合計8割ぐらい。回収し、一通り点検する。基本的には評価には反映しない。

(石川県 社会・A先生)

授業で使い、テスト前に実施する。答え合わせは生徒のグループ内で行わせる。(得意な生徒が苦手な生徒に教える。)

定期テストには1、2問程度を出題する。選択を記述にしたり、聞き方を変えたり、改題して出題する。提出させると意識が内容の理解よりも点数に行ってしまうので、回収はしていない。1問1答形式の問題は大事。授業だとさらっと流してしまう場面が多いので、きちんと身につけているか確かめやすい。

(三重県 理科・O先生)

2回に1回程度、前の授業の復習として、おもて面を授業の初めの5分間で取り組む。答え合わせは、授業中にとり同士でさせる。点数をつけて手元に戻ってきたところで、うら面を取り組ませる。(おもて面が時間内にできた生徒は、先にうら面を解いていることも。)

単元プリントやワークの問題は定期テストに出題する。毎回授業の後に回収・点検をしている。きちんと問題を解いているか、いないかを記録し、評価に含める。

(群馬県 理科・T先生)



実際の使用例(教師が解説)

- * 答え合わせは基本的には各自でさせる。記述問題は説明することもある。
- * 授業中では、入試に出やすい難問や、授業で扱わなかった実験の問題についての解説を行う。
- * 教科書を読ませてから取り組ませる。10分前に解説・解答を配り、大事なところは説明を加える。わからないところを個別に教えることもある。
- * 答え合わせは、口頭で答えを言って、一つ一つ確認しながら行う。そのあとで解説・解答を配布する。
- * 1時間で、問題を取り組ませて、解説・解答を配って自己採点し、気になる問題があれば指導をするところまで終わらせる。
- * 宿題として配り、翌日、授業内で〇つけし、間違えた生徒の多い問題だけ指導している。
- * 答え合わせは、教師が口頭で行い、〇つけさせる。時間があるときは生徒に答えを言わせたりする。その後プリントは回収して、そのときに解説・解答を配る。

単元プリントは、もともと単元ごとの評価用問題として作成されています。「観点別学習状況の評価」の観点にも対応していますので、点数を記録し、学期ごとや年間の評価に組み込むことができます。教師用に集計用のソフトがついているものも多くなっています。

いっぽう、点数の評価は定期テストで行い、単元プリントは回収・点検して提出状況や解答状況に応じて評価に加味するという使い方もされています。また、単元の総復習として、教科書なども参考にしながら取り組ませる場合などでは、評価には組み入れないという使い方もあります。

実際の使用例(点検・評価)

単元が終わるたびに1枚配る。テストとして実施している。文法単元は練習用としてやらせる。使用場面は授業中。おもて・うら通して20分で解かせている。単元プリントやワークの問題を定期テストには出題しないが、参考にはする。回収・点検して評価には組み入れる。独自のエクセル表を使って、観測別に点数を記録する。

(福井県 国語・T先生)

2 単元分を終えることに、授業1コマを取り、おもて面を2回分まとめてテストする。16枚すべてをやるうとすると時間が厳しくなる場合もある。その際は補欠授業でテストを実施。うら面は生徒に自主的にさせている。単元プリントの問題は、問いかけなどをアレンジして定期テストにも全体の3割ほど出題する。図版CDも活用している(特に公民の模式図)。教科書やワークの内容も出題。

(岩手県 社会・S先生)

単元終了ごとに使う。複数クラスが同じ授業進度になるように、調整として使用するため、授業内で取り組むときもあれば、宿題となるときもある。授業で使う場合は、皆がよく間違える問題を解説することもある。

回収・点検はする。○つけしているか、フアイリングしているか、間違った問題を訂正しているか、解説・解答の補充問題までしているかをチェックして、していたら1ポイントプラスのように評価に加味している。

(富山県 理科・Y先生)

その他の使用例

* 回収して、生徒各自の学習状況について追跡調査を行う。自己復習なので、評価のときは点数は見ない。提出の有無のみ。

* 回収も点検も行う。評価には使わないが、定期テストの練習ということで、評価にはつながっている。

* 回収・点検はする。問題をきちんと解いていればプラス1点、きちんとやっていないければ0点として評価に加算する。

* 回収したものを観測別に集計。定期テスト等で扱いきれなかった観測の補正として使うことが多い。

* 素点のみ集計。それを5〜2の数字に換算して反映する(70点以上=5、69〜50点=4、49〜30=3、29〜=2)。評価材料全体に対する割合は、2〜3割が単元プリントの点数。

* 素点をもとに、ABCで評価する。「関心・意欲・態度」の評価として使うことが多い。

* 回収・点検、評価はしていない。定期テストに同一問題や類題を出すので、そこで生徒が理解できているかを確認する。



* 1枚ずつ配ることに回収する。黒板に袋を貼り付けておいて、そこに入れさせるようにする。点検結果は、きちんと解いて提出したかどうかのみを記録し、評定に加味する。(生徒にさばらず取り組ませるための方策として、提出しなければ評価をマイナスにするようにしている。)

* 回収は特にしないが、授業中にその場で点検してはんこを押している。

* 回収・点検をし、間違った生徒の多い問題は授業で指導することもある。

* 回収・点検して評価に組み入れる。自作のエクセルデータを使って、点数も観測別に記録している。

解説・解答の活用

単元プリントの解説・解答は、問題や答え方のポイント、記述問題の解答例や採点基準が充実しています。

解説・解答を活用することで、教師が直接指導する時間を軽減することができ、同一学年を複数の教師が担当する場合などは、教師間の指導のバラつきを抑える効果も期待できます。



先生の声

教師の自己評価への活用術

おもての得点とうらの得点の平均を出す。これが自分自身の指導についての振り返りとなる。今年は1回目から4回目は平均が70点くらいあったが、5回目6回目に50点くらいになった。教え方に問題点はなかったか、というふうに振り返る。

* 宿題でやらせた場合のみ、回収・点検をし、提出物の評価に入れる。特に、記述問題をどう答えているかはしっかり確認するようにしている。

* 生徒全員について回収・点検をする。回収・点検の目的は、漢字の誤字のチェック。評価には組み入れない。答え合わせ(○つけ)は生徒自身に赤ペンでさせているが、誤字を見落としているので、自分が青ペンで訂正する。(ていねいに見ている時間はないので、誤字だけざっとチェックする。)早くできた生徒の分は、その時間内に点検する。宿題になった生徒の分は、次の授業で提出させ、生徒が次のプリントに取り組んでいる間に点検する。

中学校の学習指導上の大きなイベントである定期テスト。定期テスト前の復習のためや、テストの問題形式に慣れるための使用方法を、先にご紹介しました。普段の学習の成果を発揮しやすくするために、単元プリントの問題を定期テストに出題する、という使い方もよく見られます。また、資料活用問題など、自作しにくい問題を使われるケースも見られます。

実際の使用例

単元が終わるたびに一枚ずつ、授業中の単元テストとして使用させる。おもて面は必ずさせる。10分〜15分で。うら面はやらない場合もあり、やる場合はおもてと合わせて20分取る。全回やるわけではなく、時間の都合上とはした回は宿題としている。その場合は、ちゃんとやったかどうか、翌日の授業前に5分間のミニテストで確認する。単元プリントの問題は、問いかげなどをアレンジして定期テストにも全体の過半数は出題する。また、資料集の資料を用いた問題もテストで出題している。回収・点検ともに行い評価にも組み入れる。点数を記録し、定期テストとともに評点に用いる。

(岩手県 社会・S先生)

単元の学習の終わりに、単元テストとして使用。「走れメロス」など主要単元を中心に、16枚のうち半分程度をこの用途で使用。残りは宿題などに回す。生徒が解く時間はおもて・うら合わせて25分を基準に、できない子がいたら30分に伸ばす。残りの時間で答え合わせ・解説。解説・解答を配布し、自己採点が基本。難問のみ解説。記述に関しては、回収後に自分が採点することが多い。単元プリントの類似問題は、定期テストに出題する。そうすることで、生徒のモチベーションアップや、知識定着の確認ができる。ワークなどからも同じ。類似問題の割合は、それらの教材を合わせて2〜3割程度。授業で実施したものは回収し、評価に組み入れる。自分でエクセルの表を作り、観点ごとに集計をしている。評定には反映するが、補助的に使う。あくまで評価は定期テスト中心。定期テストでは扱いきれなかった観点(「書く」「言語」など)について、単元プリントの点数を参考にする。

(岩手県 国語・O先生)



その他の定期テストへの使用例

2 活用+1 オーストラリアの農業と貿易
資料1・2をみて、次の各問に答えなさい。

(1) オーストラリアの降水量は内陸部はどうなっているか。

(2) ①小麦の栽培、②酪農、③さとうきびの栽培が最も広く行われている地域の年降水量を、次から1つずつ選べ。
ア 1000mm以上
イ 250mm以上1000mm未満
ウ 250mm未満

(3) 資料2をみて、次の①、②の数値を答えよ。
① 1960年から2010年までに、イギリスの占める割合は約何%減ったか。
② 1960年から2010年までに、日本の占める割合は約何%増えたか。

(4) オーストラリアの貿易相手先は、1960年から2010年までの間にどのように変わったか。「ヨーロッパ諸国」「アジア諸国」の語句を用いて、簡潔に答えよ。

- * 定期テストに出題している。主に資料読み取り問題は手作りしにくいのでよく出題する。1回の定期テストにつき、5〜10題で、10〜20点分。
- * 定期テストには、図のある問題や、思考力を要する問題を単元プリントから出題する。
- * 定期テストには単元プリントのうら面の問題を半分くらいは出題する。問題レベルはさまざまだが、応用問題が多い。
- * 単元プリント、ワークブックから定期テストに出題する。単元プリントとワークの両方に出ている問題を優先的に出題する。選択肢の順番を入れ替えるなどして出題する。

図版集の利用

単元プリントには、テスト作成時などに自由に使える図版データを収録した教師用CD-ROMが、無料でついてくるものが多くあります。図版以外にも、テスト作成などに使える素材が収録されているものもあります。これらのデータを、自作テスト作成に活用している先生方もたくさんいらっしゃいます。

教師用CD-ROMスタート画面 → 収録図版選択画面 → 図版加工画面

図版の加工もできます。

問題プリント作成機能のついたものもあります。問題を選ぶだけで、右下のような問題プリントが簡単に作成できます。

問題番号を入力するだけで、小テストが作成できます。



テスト作成と著作権
教材作成と著作権

単元プリントやワークブックの問題の一部を定期テストに出題することは、著作権法上問題はありません。著作物を自由に使える場合の例として、著作権法第36条に「試験問題としての複製等」が挙げられています。

著作権法第35条「学校その他の教育機関における複製等」として、授業の過程で使用するために著作物を複製して利用することも認められています。販売されている図書教材を複製(そのままコピーしたり、テスト以外の自作教材に問題を取り込んだりすること)して使用することは、原則として著作権者(出版社)の利益を不当に害することになるので、認められていません。複製してご使用になりたい特別な事情がある場合は、著作権者(出版社)にお問い合わせください。



いろいろな使い方を紹介しましたが、使用する時間が確保できなければ、活用することができません。「単元プリントを使うかどうか」ということのみに行ってしまうと、「時間が取れない」ということになります。

単元プリントを活用して成果を上げている先生方は、単元プリントを年間の指導計画の中にしっかりと位置付けています。

特に、実験・観察など時間のかかる学習活動が多い理科の場合など、単元プリントを活用している先生方は、教科書外の実験や観察も行うなど、**実験・観察に力を入れています。**

理科学習への動機付け、学習内容の理解促進は**実験・観察を中心にし、学習内容の定着や定着度の確認には単元プリントをはじめとする図書教材をあてられています。**

先生の声

応用問題としての活用例

単元プリントを使って応用問題をおさへさせている。国語・光村1年…5回（弊社版）の「大丈夫」の意味の問題は、ワークにも教科書にも出てこないが、こういうこともある、と気づかせてくれる問題だった。

6	1	3	5	6
出	袋	工	閉	出
て	の	工	じ	て
い	口	画	こ	い
く	を	イ	も	く
こ	開	ロ	っ	こ
ど	開	ウ	て	ど
が			い	が
で			る	で
き				き
る				る

6 「大丈夫」という言葉が二つあるが、どのように意味が違っているか。次の□Ⅰ・Ⅱに入る言葉を考えて、十字以内で書きなさい。
・前の「大丈夫」は、二人だけの世界に□Ⅰから安全だという意味であり、後の「大丈夫」は、外の世界に□Ⅱという自信を意味している。

自作教材と図書教材

先生の手作り教材の良さはありますが、問題作成から編集・校正まで一貫して教材制作を専門に扱う会社が発行している図書教材を併用することで、標準的な難易度の目安がわかり、指導内容のめりや偏りも防ぎやすくなります。

また、年間を通して必要な教材をすべて自作するにはたいへんな時間がかかることが多いので、図書教材を活用することで、授業準備や生徒指導の時間を確保しやすくなります。

まとめ

単元プリント活用術 チェックポイント

単元プリントの利点

- ◆ 単元内容を基本から発展までバランスよく復習と確認、評価をすることができる。
- ◆ 「(教科書の) 1単元1枚、その都度配布可能」な教材のため、使用場面の融通が利く。
- ◆ 標準的な問題構成なので、指導内容のめりや偏りを抑えることができる。
- ◆ 標準的な問題構成で詳しい解説・解答がついているため、一学年を複数の教師で分担して指導する場合など、バラつきを抑えることができる。
- ◆ テスト作成用素材集や、評価集ソフトなどが利用できるものもある。
- ◆ **メリハリある授業計画の立案を!**
- ◆ 1時間1時間の授業のねらいを明確にし、生徒の動機付けから学習内容の理解促進、定着と確認まで、さまざまな学習活動、指導方法を授業に組み込む。その中で、復習の時間について、いつ、どれくらい確保するか。
- ◆ **自身の指導スタイルに合わせて、使用場面・事後学習・点検・評価の計画を!**

実践紹介 茨城県桜川市立桃山中学校

当校で理科を指導されている滝田昌弘先生にお話を伺いました。(現在・3年生をこ担当)

◆使用場面

3年生では「力のはたらき」「物体の運動」など小単元が終了したときに単元プリントを配付している。そこで、重要語句やポイントを押さえ、定期テストに備えるようにさせている。2分野の「遺伝」など基礎を覚えることが重要な単元では、宿題として単元プリントを配付することが多い。「仕事とエネルギー」や「酸・アルカリとイオン」など、計算や化学反応式・イオン式などが中心となる単元では、授業の中で補充的に取り組ませることもある。時には、定期テスト前に配付して復習に利用させることもあるが、単元プリントの使用は、学習内容とプリントの内容を見て、決めている。

◆使用方法

〔授業で使用する場合〕

授業の最初に単元プリントを配付し、早くできる生徒、時間がかかる生徒と解答時間に差はあるが、30分程度で取り組ませる。問題を解き終わった生徒からチェックし、アドバイスやポイントの補足をした後「解説・解答」を渡している。

〔宿題として単元プリントを配付する場合〕

単元プリントを配付した次の授業で、「解説・解答」を配付し、自己採点をして提出させる。

◆回収・チェック・評価

授業の中で補充的に取り組ませたり、宿題として使用した時には、チェックはするが、点数で評価するのではなく、「関心・意欲・態度」の評価の一つとして位置づけている。何も見ずに取り組む生徒、教科書やノートを確認しながら取り組む生徒とさまざまなので、定期テストに向けた学習や基礎・基本の定着に向けての取り組みを評価している。

定期テストには、ワークブックや単元プリントに関連付けた問題を出題するようにしている。ワークブックや単元プリントを繰り返し学習することで、単元で重要な基礎・基本事項を押さえながら、実力を高めて自信を持たせ、定期テストに臨むようにしている。

◆その他

中学校の学習では、学校行事などとの兼ね合いで、学習の進度が年間指導計画通りに進まず、遅れがちになることがある。そのため、学習内容を系統的に理解させる意味もあり、授業では年間指導計画通りに進め、学習内容の定着に向けては、ワークブックや単元プリントで押さえることで、補充をするような使用もしている。

単元プリントは、ワークブックと同様に取り組むと、学習の定着に効果的であったので、今後も効果的に単元プリントを扱っていききたい。

茨城県桜川市立桃山中学校

住所: 〒300-4416
茨城県桜川市真壁町伊佐々158
電話: 0296-55-0157
校訓: 「正しく たくましく 美しくあれ」



雄大な筑波山の懷に抱かれ、豊かな自然に囲まれた中学校です。学校林を有し、みどりの少年団活動を進めています。また、文武両道を目指し、学び合い学習と部活動に力を入れています。

この中学校では、ホームページで「授業改善プラン」を毎年公開されています。そこには、「評価の工夫」として、

「学習単元ごとに形成的な評価を行うとともに観点別評価を細分化して、生徒に対する学習成果通知の具体性を高める。」（平成26年度）

ということが明示されています。

その実践について、先生方のお話をお聞きし、

- ① 単元プリントの役割、活用方法、学習効果
 - ② 副教材メーカーの単元プリントでは、カバーできない部分があること
 - ③ これからの単元プリントの課題、方向
- を、確認させていただくことができました。

国語科

○どのような単元プリントを、現在使用されていますか？

★以前の先生方は、自作されていました。

今は、副教材メーカーの単元プリントを採用しています。小規模校のため、3学年のすべての単元のプリントを、国語科の場合、自作することがとても難しいからです。

○単元プリントを、どのように活用されているでしょうか？

★単元ごとに、最後の場面（2単位時間）で、評価テストとして使います。

- ① 1単位時間は、このプリントを配布し、両面、完全なテスト形式で解かせる。実施時間（配布、生徒が問題を解く実時間、回収）は40分程度。早くできた生徒には、挙手させ、漢字などの自習課題を与える。
- ② 採点は自分（先生）が、すべて行う。
- ③ 次の1単位時間では、前半に、この副教材に付属している「聞き取りテスト」を実施する。そのあと、この単元プリントの採点答案と解説・解答を生徒に渡す。裏面の「書く」の2問について、ていねいな事後指導を行う。

○緊密な指導計画の中で、2単位時間を、単元プリントにあてるのは、とても苦勞のあることと存じますが……。

★確かに大変ですが、「書く」の2問をていねいに指導することで、学力調査の「活用」の結果（正答率）は、とても高くなっています。

○単元プリントを重視される理由、定期テストとの関係について教えてください。

★当校は2期制で、定期テストは、年間4回です。定期テストに出題できる範囲（学習材、学習内容）は限られます。

単元プリントを使った形成的評価の重要な点は、その単元の学習後、すぐに実施、評価

できる点です。その結果は、次の単元の授業改善に反映できます。

○今お使いの単元プリントについて、ご採用になった理由をお教えてください。

★1社に固定しているわけではなく、年度ごとの使用結果を踏まえ、毎年ていねいに比較・検討しています。

やはり、「読む」（最も多い部分）の問題の質が良くなければ採用しません。

それを前提にして、今年、採用しているものは、おもて面に「語句」の問題が独立して配置されていること、そして、うら面の「書く」の指導がしやすいことです。

○副教材メーカーの単元プリントについて、ご要望はありますか？

★「話す・聞く」の評価に使える回が年間2〜4回、ほしいことです。

この観点の評価は、「聞き取りテスト」だけではできません。また、授業での活動評価には、どうしても教員の主観が入りがちです。

副教材メーカーの単元プリントに、音声は使わず、スピーチや話し合いの場面の文章を使った課題があると良いと思います。まどめの部分や、途中の発言の部分を書かせる問題であっていいと思います。



英語科

○どのような教材を、どのような目的で使用されていますか？

★当校では、自作でもよいと言われていますが、現在は、副教材メーカーの単元プリントを採用しています。

使用目的は、単元ごとの評価のためです。

○定期テストと単元プリントとの評価のバランスは、いかがでしょうか？

★観点ごとについていねいな評価を行っていますので、定期テスト、単元プリント、自作のテスト、授業、提出物ごとに、観点、特性、比重が異なります。簡単には言えません。

取って答えれば、定期テスト50〜60%、単元プリント10〜20%でしょうか。

単元プリントでは、「知識」「理解」に比重を置きます。

いっぽう、「表現」の評価では、英作文の独自課題（生活作文）を与えますし、「関心・意欲・態度」の評価には、授業での活動・発表の態度・成果が重要です。

○単元プリントを、どのように実施されていますか？

★1単元（LESSON）ごとに、最後の2単位時間を使っています。

- ① 1単位時間（45〜50分）で
- ・自習（単元プリントのための予習）5〜10分

・単元プリント（両面）実施時間20分※
（※1年初期は、25分）

- ・リスニングテスト（別のメーカーのもの）10分
- ② 採点は自分（先生）が、すべて行う。
- ③ 次の1単位時間で

・まず、総評をする。この単元を学んだ目的、誤答の多かった点の指摘、次の「LESSON」への課題を提示。

・採点答案と解説・解答を生徒に渡す。
・事後指導。生徒の誤答が多かったところ、重要点について行う。

○毎回、生徒さんに多く事後指導されているのは？

★単語の並べかえが多いです。日本語とは異なる語順や文法、語形変化が含まれ、解答はできるのですが、誤答がとても多いので、重要と思っっています。

○単元プリントの両面を20分で、できるので
しょうか？

★普通に、20分で、両面を解かれています。1年生の初期だけ、アルファベットをていねいに書くので、25分で解かれています。

○年間指導計画に、この2時間を組み込むことは、大変だと思のですが、……。

★当校の英語科では、レベル別指導（2グループ）を実施しています。両グループで、進度が揃わないことも、あります。それでも、「待つ」ということに決めています。

○ご採用の副教材に決められた理由は？

★問題の質が良いことが前提ですが、①各回、各観点の配点の比率が同じであることが大切。

②最近、前年の解答が次年度に渡らないように、毎年、採択メーカーを変える方針にしている。

○いろいろな出版社のプリントをお使いになっていることが分かりました。全般的なご要望、ご不満はございますか？

★2点あります。

①イラスト、写真の中に適切でないものがあること。

英語では、イラストや写真を見ながら答える問題があるが、たとえば、「station」（駅）という単語を想起させたい問題で、新幹線の車両の入ったホームの写真が載っている。これは、「station」（駅）ではないので、問題を解かせる前に、「これは駅です」という説明を入れなければいけない。これは困る。

②教科書と、単元プリントの学習内容のバランスの問題。

教科書の「word tree」は補充的なページなのだが、出版社のプリントは、そこが多く扱われていて、不整合を感じる。

数学科

○どんな教材を、どのような目的で使用されていますか？

★ワークは教科書会社の問題集を使っていますが、それ以外はすべて自作です。

○市販の単元プリントをお使いにならない理由は、なぜでしょうか？

★今、自分が指導している生徒とは、合いません。市販のものは、中位を中心にカバーしようとする。現場の私は、低位の生徒の学力を上げねばなりません。いっぽう、私学の上位校を受ける生徒もいます。

○計算の領域では、市販のプリント類は使えませんが、課題は、関数・図形です。この領域では、市販の教材で、低位向けにも、上位向けにも、包括的に活用できるものはありません。

○先生のご自作の単元プリントについて、お教えください。

★これが現物です。

「単元別テスト 第2章 文字と式 その1」
テストの右側には、大きく、日本語の語群や、「数」や「符号」を示しています。

○このプリントは、おもて面が、極端に優しくて、うら面の最後の問題は、厳しくつくってあります。

○市販のプリントでは、難しいことではないでしょうか。

○おもて・うらで、このように一貫した流れ

がつくれるのは、実際に授業で指導している現場教員だからです。

○単元プリントへつながるツールとして有効な手段はないでしょうか。

★このワークシートも自作していますが、現物を見てください。

・「円」とは何か。
・「円周」とは何か。

○「円」だけで15回・30ページ。
・最後は、「円周のn等分」の角度計算。

○当校の数学科では、レベル別指導（2グループ）を実施しています。このワークシートは、グループごとに配る種類、回数を変えています。

○ベテランの先生に、お聴きしたいのですが、今の生徒さんの学習態度について、お気づきの点はございますか？

★ゆっくりと考えることが苦手なようです。今の中学生にとって、静止画より、絶えず動くものが自然なのです。教員のほうも、速度感をもって指導する必要があります。

○採用された「きっかけ」は、どこにあったのでしょうか？

★定期テストの学力点が低くなっていったことです。記号解答の正答率はよいのですが、記述解答の正答率が低かったのです。

○どのように、使用されているでしょうか？

★年間、問題も、解説・解答も、「トジ」本の形で納入してもらい、使っています。

○問題も、解説・解答も、最初に渡しています。生徒の自己採点ですが、誤答の修正を指導しています。

○定期テストごとに提出させて、評価に加えています。

○この単元プリントを採用されて、効果はあったでしょうか？

★勉強のポイントがわかるようになってきました。どこが定期テストに出るか、絞り込めるようになってきています。

○今、お使いになっている単元プリントについて、ご要望をお聞かせください。

★まず、武道の回です。

○柔道、剣道、相撲の三競技で1回は、足りないと思います。どれか一つの競技を選ぶので、一競技1回を基本にしてほしいです。

○また、実技資料集との整合性という点があります。実技資料集に載っていないものが、単元プリントに出てくることは、特になくしてほしいと思います。

社会科

○今、評価用のプリントを採用されているでしょうか？

★まったく使っていません。

○使わない理由があるのでしょうか？

★そういう副教材（単元プリント）の存在を知らなかったということです。

○今、先生のご自作のプリントを拝見しています。記述問題2問が中心になっていますが、小社の、単元プリントよりも、もっと範囲が細かく、解答の自由度もあります。その分、採点も大変だと思いました。

★このプリントは、公民の「派遣労働」がテーマですが、採点はしていません。○×はつけません。答えが決まらないものを、敢えて出題しているのです。

○先生が生徒全員分を「採点」でなく、「評価」されているのでしょうか？

★もちろん、評価に加えています。

○このようなプリントを、年間、何回自作されているのですか？

★この公民分野で、3〜4の単位時間で1回です。地理分野はそれよりも多く、歴史分野は少ないです。

○先生は、副教材そのものを採用されないのでしょうか？

★ワークブックは使っています。家庭での復習用に活用しています。

○市販の単元プリントというものに、全くご興味がないのでしょうか？

★最初にいったとおり、そういう教材の存在を知らなかっただけです。

○「知識・理解」の評価で活用できるのであれば、使う意味があるかもしれません。見本を見てみたいと思います。

○今、単元プリントを使用されていますか？

★今は、副教材メーカーの単元プリントを採用しています。

○ご使用目的は、どこに置かれていますか？

★「評価」直結というよりは、生徒の学習のふり返りのためのプリントとして、主に活用しています。

○理科は、実験・観察を中心にした学習をする教科です。プリントは、生徒への意識づけとして、重要に考えています。

○短い、細かい学習サイクルで、ふり返ること。それが、次の学習へのきっかけ、動機を形成し、そのくりかえしが、生徒の学習習慣をつくりだします。

○単元プリントの具体的な実施形態について、お教えください。

★基本的には、単元末のまとめ用ですが、臨機応変に使っています。

○授業のまとめに使う場合もあります。定期テ

理科

○市販の単元プリントというものに、全くご興味がないのでしょうか？

★最初にいったとおり、そういう教材の存在を知らなかっただけです。

○「知識・理解」の評価で活用できるのであれば、使う意味があるかもしれません。見本を見てみたいと思います。

○今、単元プリントを使用されていますか？

★今は、副教材メーカーの単元プリントを採用しています。

○ご使用目的は、どこに置かれていますか？

★「評価」直結というよりは、生徒の学習のふり返りのためのプリントとして、主に活用しています。

○理科は、実験・観察を中心にした学習をする教科です。プリントは、生徒への意識づけとして、重要に考えています。

○短い、細かい学習サイクルで、ふり返ること。それが、次の学習へのきっかけ、動機を形成し、そのくりかえしが、生徒の学習習慣をつくりだします。

○単元プリントの具体的な実施形態について、お教えください。

★基本的には、単元末のまとめ用ですが、臨機応変に使っています。

○授業のまとめに使う場合もあります。定期テ

